

## 『目的分析』

川がよくなる

川に关心を持つ人が多くなる

利用者が多くなる

直接目的：  
景観がよい

海洋汚染をふせぐ  
ことができる

ゴミが太平洋に  
流れていかない

ゴミがT湾に流  
れていかない

野生生物に害に  
ならない

釣りの邪魔  
にならない

中心目的：  
H川の土手と水際で散乱ゴミがない

パートナーシップアプローチ

目的の共有化  
契約ができる  
市民が責任をもって  
契約内容を遂行できる  
行政が仕事をまかせ  
つきりでなく、応分の仕  
事をする

協働のルール  
ができる

マナー徹底アプローチ

マナーを守る

ゴミを捨てたらなぜいけないのかを理解している

ゴミは持ち帰るルールが徹底される

啓発活動が十分出来ている

直接手段：  
ゴミを捨てる人がいない

容器はデポジット制になっている

ゴミを捨てたら罰金の制度有り

ゴミになるものが売られていない

有人のゴミ収集場所がある

場所の設置人の手配

制度改革アプローチ

計り売りの店がある

ゴミが流れ着かない

日常的に利用者がゴミを捨てる

ボランティアによるゴミ拾いの回数が十分

多数のグループ参加

H川を守る会の活動が多い

会員増役割分担リーダーシップ

途中でゴミをトラップする設備があり、ゴミは回収されて処分される

回収トラップ施設の設置  
回収のシステム整備

ゴミトラップアプローチ

ゴミが見える

ゴミ拾い活動に参加経験がある  
ゴミの影響を理解できる

活動の合間に短時間のゴミ拾いができる

ボランティアアプローチ

ゴミ拾いの意義がわかる

ゴミ拾い活動が簡単にできる

ゴミ拾いのノウハウを知っている